

生田緑地ビジョンアクションプラン「新たなビジョンの施策の基本方向に基づく具体的な取組」

みどり・生物多様性「生田緑地の自然が守られ、育まれている」

生田緑地の自然資源は、地域の人々の生活と様々なつながりを持つことで、親しまれ、愛され、守られてきました。この人とのつながりで引き継がれてきた自然資源の価値を改めて市民と共有し、未来に引き継ぐため、公園DXを最大限活用するとともに、多様な主体との取組を推進し、安全安心で、生物多様性に配慮したみどりを育てていくことを目指します。

【方向性】施策の基本方向	時期	【想定する主な取組】具体的な取組の内容・イメージ（○：短中期（1～5年）、☆：長期（5～10年））
・ナラ枯れ被害に対応した緊急対応と植生管理計画の見直しなど中長期的な取組の推進【視点①、⑥】	○	園路や民家に隣接し、ナラ枯れした危険な樹木について伐採する。
	☆	ボランティア団体が皆伐更新・ギャップの活用を含めた植生管理を継続していることから、その取組も踏まえ、他の地域における活動の展開方法を検討する。
	☆	樹木の皆伐更新などの里山を未来に引き継ぐための取組を検討する。
	○	植生管理計画の見直し（ナラ枯れ後の植生管理のあり方を検討）を行う。
・植生管理計画の順応的管理の実践【視点①、⑤】	○	動植物調査を定期的実施。目標植生を設定し、自然環境の変化を把握する。
	○	植生管理について、順応的管理を実践する。
	○	順応的管理の実践のための講座を創設し、活動参加者の知識や技術の向上を図る。
	○	大学などとの協働でモニタリング結果を市民に分かりやすく発信する。
・みどりを支える新たな担い手づくりと支援する仕組みづくり【視点①、④】	☆	順応的管理を継続して実践する人材の確保と支援体制を確立する。
	○	指定管理者等が、各団体の活動への参加のきっかけづくりとなる「誰でも参加しやすいプログラム」や「フレキシブルなボランティア参加」を企画し、参加者を募集し、運営を支援する。必要に応じて団体支援も検討
	○	指定管理者等が、見直された植生管理計画に必要な保全・活用プログラムを提案し、参加する人材と指導する人を募集して、活動を支援する。
・多様な主体との連携・協働・共創による取組【視点④】	○	企業の社会貢献事業、助成などに関する情報を集めて提供し、活用を支援する。
	○	生田緑地外で活動するボランティア団体に対して、生田緑地での知識や技術を提供し、支援する。
	○	自然資源を活用した「子育て」「アート」「文化交流」などの活動を受け入れを検討する。
・伐採木の資源化・工芸品化等の有効活用【視点③】	○	里山資源の活用試行（ホダ木によるキノコ栽培、和紙、染織や道具・遊具づくり、炭での暖房、水質浄化など）を行う。
	○	生田緑地の自然素材で作ったモノを使ったイベントや販売会等を積極的に開催する。
	○	緑地内及び周辺地域において伐採木の燃料活用など、利活用を積極的に推進していく。
・生物多様性の保全をテーマにした多様な取組（ICT技術を活用した情報収集や発信・市民の知的好奇心を活用した科学的活動）の推進【視点①、④、⑤】	○	萌芽更新や大径木の伐採といった自然影響へ大きな影響を与える維持管理については、作業内容や経過観察をSNSで発信し、市民の関心につなげる。

生田緑地ビジョンアクションプラン「新たなビジョンの施策の基本方向に基づく具体的な取組」

文化「生田緑地の歴史・文化を守り、緑地等と融合し、多様な主体と共創し、発信している」

新たなミュージアム構想を含めた緑地内の多様な文化施設と緑地との融合、アートや文化を活かした緑地内、周辺まちづくりとの一体的な取組等により、緑地内外の一体的な魅力向上を進め、生田緑地の歴史・文化の融合を進め、未来へつなぎます。

【方向性】施策の基本方向	時期	【想定する主な取組】具体的な取組の内容・イメージ（○：短中期（1～5年）、☆：長期（5～10年））
・新たなミュージアム構想も含め、緑地内の文化施設と緑地との融合【視点②、③】	☆	新たなミュージアムを含む各文化施設のテーマである「自然と人の営みとの接点」を森の中に表現していくなど、文化施設とみどりの相互活用について検討していく。
	○	自然環境と人間の営み・文化との関りを学べる「里山文化」をテーマとした里山の利活用プログラムを提供する。
	○	子どもが成長していく過程で「文化にふれあう機会」と「自然とのふれあい教育の場」を提供する。
・東地区も含めたアートや文化を活かした緑地内の一体的な取組実施【視点②、③、④】	☆	多様な文化施設の魅力を施設内だけでなく、生田緑地内に広げて、みんなが文化に触れ合う機会を作り、多くの人が参加できる活動を提供する。
	○	自然資源を活用した「子育て」「アート」「文化交流」などの活動を受け入れる。
	○	既存のイベント・プログラムなどの検証を行い、効果的な文化体験や情報の提供方法などを検討する。
・駅前周辺まちづくりと連携した文化活動の実施【視点②、③、④、⑦】	○	生田緑地と地域の歴史・文化のつながりを学ぶ機会の提供を検討する。
・歴史・文化への多様なアクセシビリティの向上【視点②、③、④、⑤、⑦】	○	新たな移動手段も視野に入れつつ、最寄り駅から生田緑地までのアクセス性について検討する
	○	最寄り駅から生田緑地までの移動を楽しんでもらえるよう、地域との連携や地域資源を活かした工夫について検討する。

生田緑地ビジョンアクションプラン「新たなビジョンの施策の基本方向に基づく具体的な取組」

施設「生田緑地における施設として価値が最大化されている」

緑地内の多様な施設が、有する機能を最大限発揮するため、回遊性向上に向けた取組や東地区の拠点となる施設の整備などを計画的に進めるとともに、適正な維持管理運営を実現し、その魅力が多様な主体との連携・協働・共創により最大化し、これまで以上に市域を超えて全国に発信することを目指します。また、施設マネジメントの観点から、既存施設の改修等にあたっては、施設最適化に向けた取組を進めるものとし、みんなが使いやすく安全・安心な公園を実現します。

【方向性】施策の基本方向	時期	【想定する主な取組】具体的な取組の内容・イメージ（○：短中期（1～5年）、☆：長期（5～10年））
・施設の資産マネジメントを踏まえた事業の推進【視点③、④、⑥、⑦】	○	施設の更新にあたっては、長寿命化の観点から使用材料の選定、標準化を進める。
	☆	利用状況を踏まえた施設規模の検討を行う。
・効果的・効率的な施設の維持管理運営の推進【視点③、④、⑤、⑥】	☆	利用の変化やニーズの変化を踏まえ、柔軟な施設運営を行う。
	☆	周遊散策路の整備を進め、緑地内の回遊性向上に向けた使いやすい園路、案内の整備を行う。
・回遊性の向上（移動手手段・園内ルート・情報）など緑地全体の魅力向上に向けた計画的な事業の推進【視点①、②、③、⑥、⑦、⑧】	☆	団体利用を踏まえた大型バス駐車スペースの検討、駐車場の利用案内の改善などを行う。
	☆	都市計画区域のあり方等を検討したうえで、都市計画区域内の用地取得を目指し、地権者との交渉を行い計画的な用地取得と施設整備に取り組む。
	○	生田緑地全体のイベント情報やルート案内等を利用者にわかりやすく発信する。
	☆	向ヶ丘遊園跡地利用計画や新たなミュージアム構想とも連携しながら、生田緑地ばら苑の再整備を進め、東地区の魅力を最大化する。
・ばら苑のあり方を検討するとともに、向ヶ丘遊園跡地利用計画、新たなミュージアム構想と連携・融合を目指した調整を進め、東地区の魅力の最大化に向けた取組【視点①、②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧】	☆	東地区の魅力の最大化に向けて、整備、維持管理運営手法を検討する。
	☆	災害時に避難できるオープンスペースや動線を確保する。
・安全・安心な公園に向けた事業の推進【視点①、⑤、⑥、⑧】	○	発災時の公園施設、オープンスペースの使われ方を想定し、訓練等を実施する。
	○	変状のあった斜面地等を対象にした専門家による調査を行うなど園内の安全確保を図る。
	○	雨水を浸透、保水する涵養林としての機能など、グリーンインフラ機能の維持に努める。
	○	

生田緑地ビジョンアクションプラン「新たなビジョンの施策の基本方向に基づく具体的な取組」

人（担い手・来園者）「誰もが生田緑地を楽しむとともに、親しみを持ち、ファンになっている」

生田緑地に関わる人誰もが、協働のプラットフォームを通して、自然と人々との営みの関係性を理解しながら緑地に関わることで、豊かな自然・文化・人・まちが共に息づきみどりがつなげる持続可能な生田緑地の実現し、みどりに親しみを持ち、ファンになること目指します。協働のプラットフォームについては、誰もが参加しやすい仕組みづくりとしての活動プログラムや市民科学の発展につながる取組を進めます。

【方向性】施策の基本方向	時期	【想定する主な取組】具体的な取組の内容・イメージ（○：短中期（1～5年）、☆：長期（5～10年））
・協働のプラットフォーム「生田緑地マネジメント会議」「生田緑地自然環境保全管理会議」の取組を強化【視点②、③、④、⑤】	○	誰もがが生田緑地の参加しやすい仕組みづくり、協働のプラットフォームの運営体制の強化を検討する。
	☆	ナラ枯れ伐採後の樹林地の再生に取り組む。
	○	生田緑地の自然を考える取組に多くの市民に関心をもってもらい、参加してもらえる仕組みづくりを検討する。
	○	ボランティア団体が、皆伐更新を含めた植生管理を実践してきた取組を踏まえ、ナラ枯れ後の樹林地の再生を検討する。
・担い手を支える仕組みづくり（中間支援組織の拡充）【視点②、③、④】	○	既存団体が活動を休止・解散した場合、新たな団体の立ち上げなどを支援する。
	☆	ボランティア団体が、担ってきた自然環境の調査などについて、継続できるよう支援するとともに、調査内容について市民に分かりやすく発信する。
・自然環境の保全など課題解決の場となる取組みの試行実施【視点②、④】	☆	指定管理者等が、植生管理計画に必要な保全・活用プログラムを提案し、参加する人材と指導する人を募集して、活動を支援する。
	☆	順応的管理の実践のために、座学、現場研修、管理作業などを一連で体験できる講座を開設することで、参加者の知識や技術力を向上させ、担い手確保につなげる。
・誰もが緑地の活動に参加しやすいプログラムの提供【視点②、③、④】	○	指定管理者等が、各団体の活動への参加のきっかけづくりとなる「誰でも参加しやすいプログラム」や「フレキシブルなボランティア参加」を企画し、参加者を募集し、運営を支援する。
	○	親子連れや初心者、障がいをもつ人でも参加できるプログラムを用意する。
・リスクマネジメントの実施（緑のキャリングキャパシティの検討等）【視点①、③、⑥、⑧】	○	指定管理者が、生田緑地の活動におけるヒヤリハットなど安全衛生に関する情報を共有できる仕組みを検討する。
	○	イベント等の実施にあたって、緑地のキャリングキャパシティーを踏まえた計画となるように管理者が調整する。

生田緑地ビジョンアクションプラン「新たなビジョンの施策の基本方向に基づく具体的な取組」

まちづくり「生田緑地が地域の財産として活用され、地域のにぎわいや経済の活性化につながっている」

生田緑地が市域最大の緑地としての役割を果たすとともに、地域の財産として新たなニーズにも応え、地域のにぎわいや経済の活性化につなげることで、みどりのまちづくりの核としての役割を果たします。また、自然災害への備えとして、生田緑地に関わる人が、様々なハザードマップや災害の歴史等への理解を深め、係ることにより、地域の防災拠点としての役割を担い、安全安心なまちづくりにつなげます。

【方向性】施策の基本方向	時期	【想定する主な取組】具体的な取組の内容・イメージ（○：短中期（1～5年）、☆：長期（5～10年））
・地域の公園としての役割を果たす【視点②、③】	○	「子育てを楽しめるまちづくり」に対応した取組を検討する。
	○	年代、季節、時間帯などでの公園の使われ方を踏まえた維持管理を検討する。
・IT技術等を活用した情報発信【視点②、③、④、⑤】	○	生田緑地の自然を知り、体験できる情報発信を検討する。
	○	リモートワークの増加を踏まえ、緑地のオープンスペースを活かした場の提供（wifi環境の整備等）を検討する。
・地域における観光拠点としての役割を果たす【視点②、③、④、⑤】	☆	生田緑地とまちの情報収集ができるようビジターセンターの活用や駅周辺施設の活用を検討する。
	○	生田緑地に残された自然環境の魅力を発信する。
	☆	多様な文化施設の魅力を周辺のまちにも広げて、ふれあう機会を作り、多くの人が参加できる活動を紹介していく。
・生田緑地マネジメント会議等を活用した商店街や町内会等の連携による魅力向上【視点②、③、④】	☆	生田緑地の自然を保全・活用する団体に、地域で活動する自然関連団体や中間支援組織を紹介して、情報提供できる仕組みを検討する。
・駅周辺からのアクセス性の向上とアクセス路の魅力向上【視点②、③、④、⑤】	○	新たな移動手段も視野に入れつつ、最寄り駅から生田緑地までのアクセス性について検討する
	○	最寄り駅から生田緑地までの移動時間を楽しみながらアクセスしてもらうため、地域の多様な資源との連携を検討する。
・自然災害時等に緑地が果たすべき役割の拡充【視点②、⑥、⑧】	☆	災害時に避難できるオープンスペースや動線を確保する。
	○	発災時の公園施設、オープンスペースの使われ方を想定し、訓練等を実施する。
	○	変状のあった斜面地等を対象にした専門家による調査を行うなど園内の安全確保を図る。